

知的障害特別支援学校における学習指導要領に応じた 教育課程編成上の課題について

—小学部から高等部の分析を通して—

○今枝 史雄
(大阪教育大学)

佐藤 麗奈
(練馬区立光が丘春の風小学校)

烏雲畢力格
(株) ココロ発達療育センター)

菅野 敦
(東京学芸大学)

KEY WORDS: 知的障害特別支援学校 教育課程 課題

I. はじめに

2017年4月に特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、2019年2月に高等部学習指導要領(以下、新学習指導要領)が告示された。新学習指導要領の改訂のポイントは、小学部、中学部、高等部共通して「社会に開かれた教育課程の実現、育成を目指す資質・能力、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立など、初等中等教育全体の改善・充実の方向性を重視すること」「障害の重度・重複化、多様化への対応と卒業後の自立と社会参加に向けた充実」などが挙げられている(文部科学省,2017;2019)。また、道徳が「特別の教科」として設定された。「知的障害者である児童(生徒)に対する教育を行う特別支援学校」においても、旧学習指導要領と違い、各教科別の指導が3つの育成すべき資質・能力に合わせて目標が設定されるなどの変化が見られた。よって、知的障害特別支援学校において、学習指導要領に応じた教育課程を編成していく上で、さまざまな課題を抱えており、学部ごとでも特徴が見られることが予想される。

以上より、本研究では、全国の知的障害特別支援学校への調査を通して、学部別の学習指導要領に応じた教育課程編成上の課題の特徴を明らかにすることを目的とする。

II. 方法

1.調査対象:全国の知的障害部門を有する特別支援学校743校(うち小学部570校、中学部563校、高等部668校)であった。高等部は普通科を対象とし、普通科がない場合は職業学科を対象とした。**2.調査項目:**各学部、教育課程の課題を問うた。「①学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程編成の仕方がわからない(以下、学習指導要領)」「②教科別の指導の編成の仕方が難しい(以下、教科別の指導)」「③自立活動をどのように組み立てたらよいかわからない(以下、自立活動)」「④道徳をどのように実施したらよいかわからない(以下、道徳)」「⑤各教科等を合わせた指導の編成の方法が難しい(以下、合わせた指導)」「⑥年間指導計画の立案が難しい(以下、年間指導計画)」「⑦その他」「⑧特に課題なし」の8項目を設定した。「⑧特に課題なし」以外の項目は複数選択可とした。**3.調査方法:**調査用紙は郵送による送付・回収を行った。回答は、特別支援学校の教育課程に詳しい教職員に依頼した。**4.調査期間:**2018年の1月～2月であった。**5.回収率:**小学部53.5%(305校)、中学部54.0%(304校)、高等部50.6%(338校)であった。**6.手続き:(1)分析対象:**調査項目について記入不備のなかった小学部286校、中学部285校、高等部313校を分析対象とした。**(2)分析:**「特に課題なし」と答えた学校を除き、学部ごとに教育課程編成上の課題の選択率をそれぞれ算出し、実数を用いて χ^2 検定を実施した。選択率は「課題を選択した学校数/「特に課題なし」と答えた学校を除いた分析対象校」で算出した。**7.倫理的配慮:**調査対象校に対して、書面にてプライバシー保護について説明し、同意を得た場合のみ、調査を実施した。

III. 結果

「特に課題なし」と答えたのは、小学部53校(18.5%)、中学部62校(21.8%)、66校(21.1%)であった。課題を選択していた小学部233校、中学部223校、高等部247校の課題の選択率を算出した結果を図1に示す。

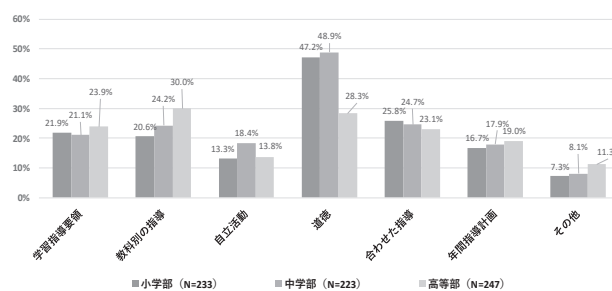


図1 各学部 教育課程編成上の課題 選択率

図より、小学部、中学部では「道徳」の選択率が最も高く、次いで、「合わせた指導」であった。高等部では「教科別の指導」の選択率が最も高く、次いで、「道徳」であった。「その他」には「児童生徒の実態に差があり、適切な学習集団を編成することが難しい」「教室が足りない」などが挙げられた。実数を用いて χ^2 検定を実施した結果、有意差が見られた($\chi^2(12)=24.3, p<.05$)。残差分析の結果、小学部は「道徳」の選択率が5%水準で有意に多く、高等部は「教科別の指導」が5%水準で有意に多く、「道徳」は1%水準で有意に少なかった。

IV. 考察

道徳について、今枝ら(2021)は全国の知的障害特別支援学校における道徳の実施率を調査し、2018年時点で20%未満であることを報告している。新学習指導要領では道徳は特別の教科となったため、実施率の上昇が予想されるものの、これまで、知的障害児に対する道徳の授業実践の報告がほとんどなされていない。今後は知的障害児の発達段階に合わせた指導方法の検討を行う必要があると言える。

また、高等部では教科別の指導に関わる課題が最も多く挙げられていた。全国特別支援学校知的障害教育校長会が毎年報告している「情報交換資料集計(都道府県一覧表まとめ)」の直近5年を比較すると、どの学部も中度・軽度の知的障害のある児童生徒数が増加傾向にあり、高等部は最重度・重度と比較して、中度・軽度の知的障害のある生徒の方が多く在籍していた。よって、高等部は他学部と比較して、教科別の指導に関わる課題が多く挙げられたものと言える。新学習指導要領の改訂のポイントにある「学びの連続性を重視した対応」を踏まえ、教科別の指導の実施について検討していく必要があると言える。

今後の課題として、新学習指導要領の実施にかかり、こうした課題について各学校がどのように対応しているか調査する必要があると言える。

(IMAEDA Fumio, SATO Rena, Oyonbleg, KANNO Atsushi)